

2014年3月期 年度決算の概要

2014年5月9日

IBJ
LEASING **興銀リース株式会社**

本資料には現時点での将来の予測数値が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により変動することがございますので、ご留意下さい。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的とするものではありません。

連結業績

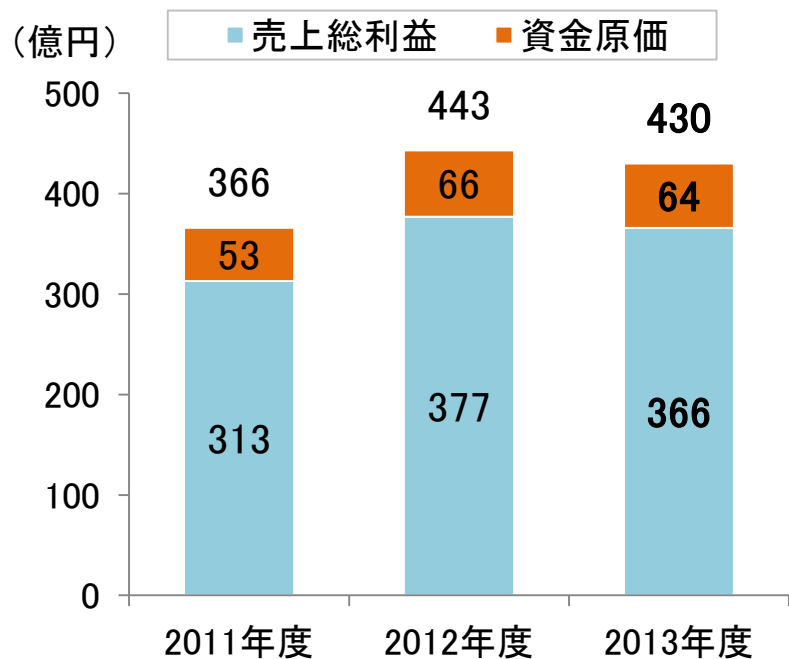
- 積極的な営業資産の積上げにより金利低下の影響を最小限に抑えるとともに、コスト面の改善も図り、営業利益以下は増益
- 前中期経営計画(2011-2013年度)は最終年度の数値目標を達成

(億円)	2011年度	2012年度 ①	2013年度 ②	増減額 ②-①	増減率 ②/①	前中期計画 数値目標
売上高	2,701	3,525	3,548	+23	+1%	—
差引利益	366	443	430	▲13	▲3%	—
(資金原価)	(53)	(66)	(64)	(▲2)	(▲3%)	—
売上総利益	313	377	366	▲11	▲3%	—
(一般経費)	(145)	(190)	(190)	(0)	(+0%)	—
営業利益	107	147	167	+20	+14%	—
経常利益	111	154	174	+20	+13%	—
(信用コスト)	(60)	(39)	(8)	(▲31)	(▲80%)	—
当期純利益	43	89	105	+16	+18%	100億円
R O E	6.2%	11.8%	11.4%	—	—	10%以上
営業資産残高	12,113	12,631	13,430	+799	+6%	12,000億円

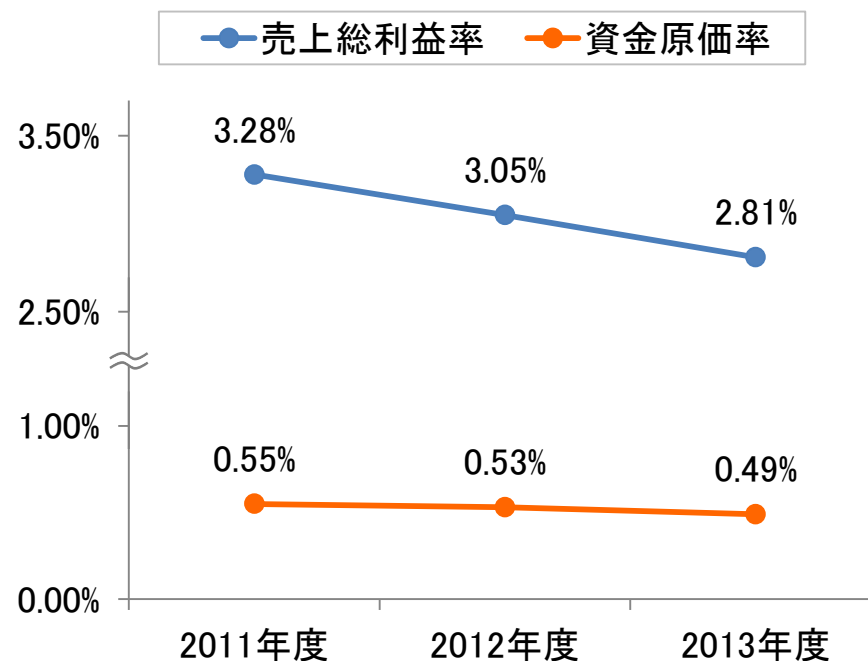
収益状況

- 低金利継続の中、低利資産への入替えが進み、差引利益は減少
- フローベースでの利回り改善が続くも、売上総利益率は引続き低下
- 資金調達レートは引続き改善し、資金原価は減少

差引利益



運用利回り

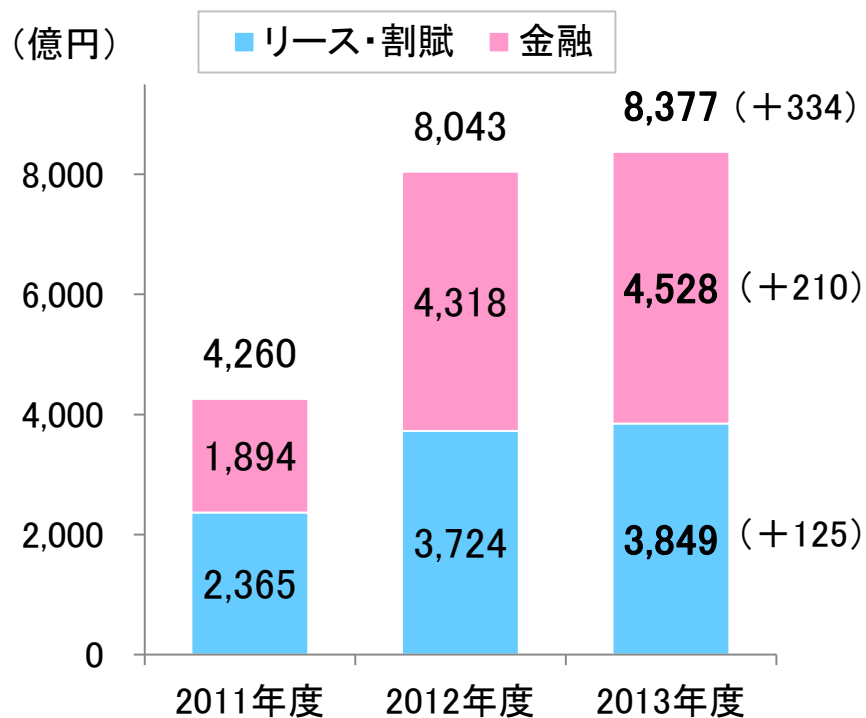


(注) 売上総利益率 = 売上総利益 ÷ 営業資産の平均残高
資金原価率 = 資金原価 ÷ 営業資産の平均残高

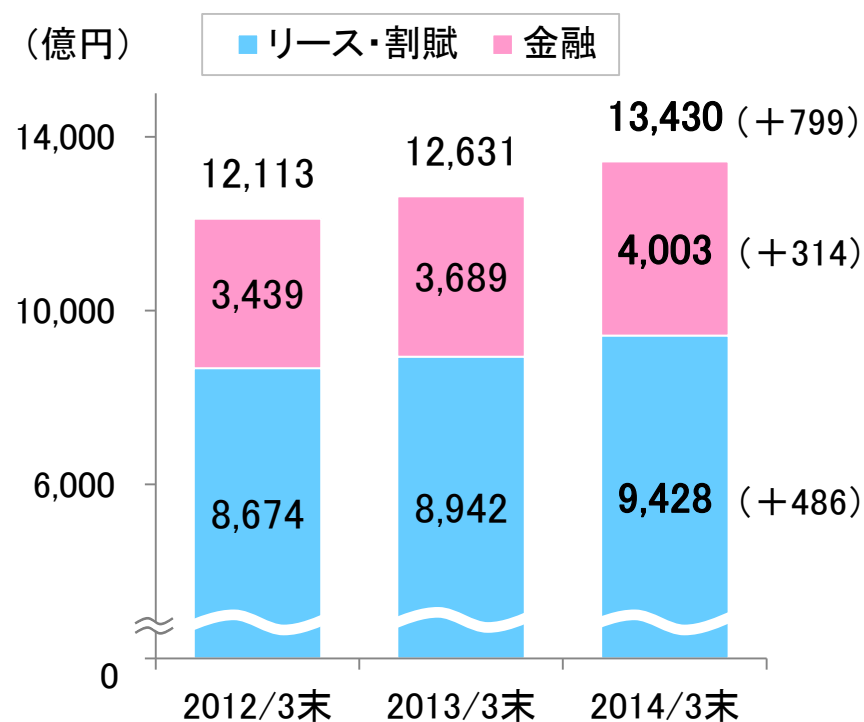
営業状況

- 【契約実行高】は、多様なニーズを捕捉し、「リース・割賦」「金融」共に増加
- 【営業資産残高】も、年度目標(1兆3,000億円)を上回る1兆3,430億円に伸長
—「金融」では航空機ファイナンス、海外プロジェクトファイナンス等で優良資産を積上げ

契約実行高



営業資産残高



機種別契約実行高

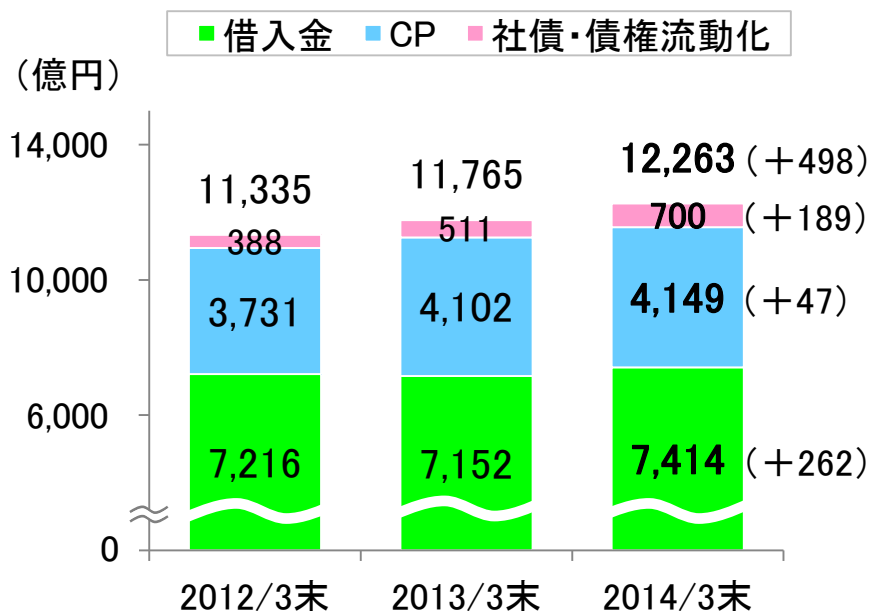
- 企業の設備投資ニーズを幅広く捕え、契約実行高全体は前期比増加
 - 大型案件剥落による一部の落ち込みを、他の機種の伸びによって吸収
- 注力分野である内需型産業に対する取組みに着実な成果
 - [医療機器]、[商業・サービス業用機器]、[その他(不動産リース)]は引続き伸長

(億円)	2011年度	2012年度	2013年度	増減額(率)
産業・工作機械	384	1,091	826	▲ 265 (▲ 24%)
情報通信機器	576	834	932	+ 98 (+ 12%)
輸送用機器	335	418	344	▲ 74 (▲ 18%)
土木建設機械	372	388	574	+ 186 (+ 48%)
医療機器	197	335	369	+ 34 (+ 10%)
商業・サービス業用機器	217	241	312	+ 71 (+ 30%)
事務用機器	86	122	152	+ 30 (+ 25%)
その他	197	297	339	+ 42 (+ 14%)
合計	2,365	3,724	3,849	+ 125 (+ 3%)

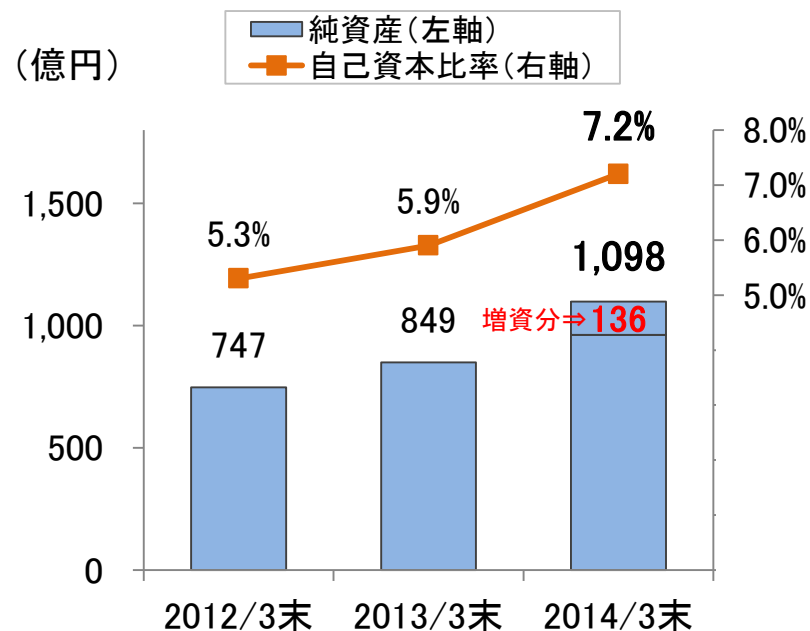
負債・純資産

- 営業資産増により有利子負債は増加するも、良質な資金確保に努め資金原価は低減
- 純資産は公募増資と純利益の積み上げ等により前期末比249億円増の1,098億円
 - 自己資本比率は前期末比+1.3%上昇し7.2%
 - 増資概要：新株105億円(5,000千株)、OA17億円(800千株)、自己株14億円(650千株)

有利子負債残高



純資産・自己資本比率



(億円)	2011年度	2012年度	2013年度
【資金原価】	53	66	64

第4次中期経営計画(2014-2016年度)①

第3次中期経営計画 (2011-2013年度)

<主な実績>

- 大型M&Aによる大幅な営業資産の増大
- 流通・小売、医療分野における取引拡大
- 公募増資による成長原資の確保と財務基盤の強化

事業環境や社会構造の変化に即した顧客基盤と事業領域の拡大

ビジネス機会

<国内経済動向>

- 内需型産業、成長分野の設備投資

<マーケット動向>

- 市場の変動、金融のグローバル化、
企業の資金調達が多様化

<企業の海外展開>

- 海外設備投資、現地商流

発展的継承
加速

事業基盤

<営業基盤>

- 親密金融機関・企業とのネットワーク
- 内需型産業向けの取引伸展
- 専門ファイナンス分野のノウハウ蓄積

<財務基盤>

- 良質かつ安定した資金調達の基盤
- 資産増に対応可能なリスク耐久力

第4次中期経営計画 (2014-2016年度)

『新たな成長への挑戦』

- 独自性を発揮し企業の成長をサポート
- 新たなステージに立ち“更なる進化”を目指す

第4次中期経営計画(2014-2016年度)②

ビジョン

時代を見つめ、お客様と共に成長する特色ある総合金融サービスグループ

基本戦略

コア事業の更なる深化と基盤拡充

専門金融ポートフォリオの質的向上と量的拡大

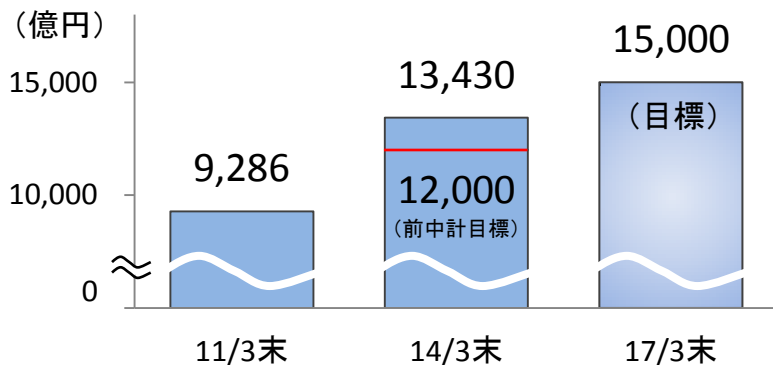
海外ビジネスの基盤強化と領域拡大

環境変化を捉えたビジネスインフラの構築

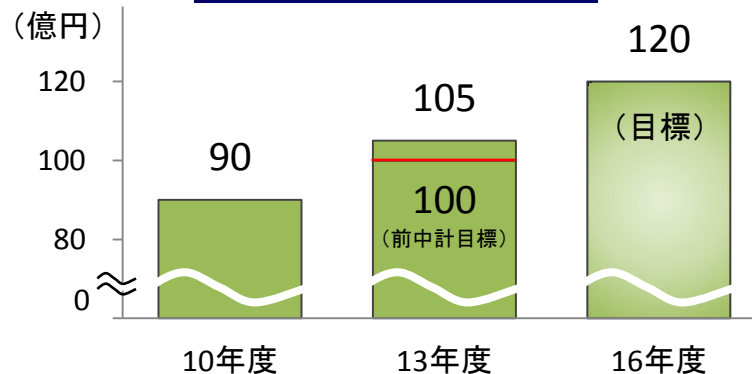
“資産”と“収益”の更なる増強により安定成長を実現

数値目標

営業資産残高



当期純利益



業績予想及び配当

- 厳しい競争環境が継続する中、新中計の初年度として安定成長の実現に向けた確かな一歩を踏み出すべく、基本戦略を着実に展開
 - 基礎収益力の向上により、コスト計画の負担増を打返し当期純利益は増益を予想
- 1株当たりの配当金
 - 2013年度の期末配当金(予定)は当初予想26円から2円上方修正し28円に
 - 2014年度の年間配当金(予想)は2円増加と13期連続増配予定

(億円)	2012年度 (実績)	2013年度 (実績)①	2014年度 (予想)②	増減額 ②-①	増減率 ②/①
売上高	3,525	3,548	3,550	+2	+0%
営業利益	147	167	167	0	+0%
経常利益	154	174	174	0	+0%
当期純利益	89	105	110	+5	+4%
年間配当金	50円	54円	56円	+2円	
中間配当金	24円	26円	28円	+2円	
期末配当金	26円	(予定) 28円	28円	—	